

1. 残念、頂上は濃霧 登山部・三つ峠ハイキング

11月15日(土)、合唱団登山部は三つ峠に登りました。参加者は、伊藤、八戸、原田、山本(以上 B1)、丸山、本間(以上 T2)の6名。今回初参加の丸山氏は、若いときは大学ワングルで活躍した山男で、膝の修復がようやくなったの参加でした。

三つ峠といえば、往年のハイキングの名所で、団員の皆様方も若いときは登ったという方も多いでしょう。その頃は、新宿から夜行直行の臨時列車に乗り、富士急・三つ峠駅に着くのが午前3時ごろ、懐中電灯を照らし砂利道を歩くこと約1時間、達磨石からいよいよ登りで、約3、4時間で頂上、急げばご来光に巡り合うという具合でした。

このコースは登山入門コースで、頂上付近ではロッククライミングの練習をしているグループも見られます。

しかし、このコースは少々きついで、「誰でも登れる山で、頂上で鍋」という方針に合いません。そこで、今回は往年にはなかった裏口登山口に行くことにしました。

当日、菊名6:25で八王子経由高尾7:46発の河口湖行きに乗車しました。富士急線に入った頃から、快晴のもと三つ峠がはっきり車窓から臨めました。確かに頂上の辺りは三つの峰に分かれているのがよくわかりました。

河口湖9:33着で40分発のバスに乗車。この日は生憎、河口湖道路が工事中の通行止めで、河口湖周辺道路も渋滞し始めて、時間が予定をオーバーしましたが、登山口に到着。

これからの道は、頂上小屋がジープで物資を運ぶときに使う道で、幅も広く登りも緩いものです。30分毎に一息入れてゆっくりゆっくりで、約2時間で頂上下の小屋に到着しました。この頃から霧が立ちこめそれも濃霧で、楽しみにしていた富士山との対面もかなわず、頂上も良く見えません。

それでも元気ものの伊藤氏が出かけ、頂上往復を約20分で成し遂げ帰ってきて言うには「何も見えなかった」。

一同、寒い中を缶ビールで乾杯、鍋は今回人数の関係でなしとしました。

無論、パート不足の中「セーリングセーリング」を歌って昼飯を締めくり、周りの登山者から拍手を頂きました。

降りは約1時間で登山口、頂上で呼んでいたタクシーに乘乗、河口湖駅に近い温泉寺という立ち寄り湯に行き汗を流し、ここでは生ビールが旨かったこと。



帰路は、予定より1時間早めて、大月からは横浜直行の特急「はまかいじ」で無事帰宅しました。来春の山行は5、6月頃を予定して、そのときは勿論鍋をやりますので、皆様奮ってご参加ください。(T2・本間)

2. 第19回日本丸マスターズ

神奈川県と静岡県にまたがっている箱根くらげゴルフ場。朝は霜が降りていたけれど、富士山がくっきり。11月20日(木)、第19回マスターズは、12名が参加。

順位	氏名	OutInGRSHDCP	NET
優勝	田村 芳樹	55 50 10534.4	70.6 NP
準優勝	佐藤 精吾	47 45 9217.6	74.4 BGNP
第3位	川島 通明	54 49 10327.2	75.8
第4位	伊藤 隆輔	59 53 11234.4	77.6
第5位	松山 英明	51 52 10324.8	78.2
第6位	高野 弘泰	59 56 11536.0	79.0
第7位	原田 實	59 56 11534.4	80.6
第8位	坂井 猛二	55 58 11329.6	83.4 NP
第9位	山路 永司	61 60 12136.0	85.0
第10位	高橋 道夫	66 65 13136.0	95.0 BB
第10位	小永井 晃	71 60 13136.0	95.0 BB
第12位	本間 英臣	69 75 14436.0108.0	

優勝は、4時半に家を出た田村さん、初出場からの2連勝でした。そして優勝インタビュー



ではきっぱり「三連覇を目指します」。今回は、全く同点でブービーが2人受賞でした。

その後は恒例の時之栖(ときののすみか)で御殿場高原ビールを堪能。

次回記念すべき第20回大会は、いよいよ来週5月14日(木)+宴会+泊まりです。もちろん第二部だけの参加も歓迎です。

3. 鱒ヶ沢スキー(その1)

第2回スキー部合宿は、2月11-13日に開催。五所川原の豪快な立佞武多や津軽三味線も楽しみました。写真は、スキー板(スノボーも)は一度も履かなかつたけれど、一番楽しんだ杉野さん。格好良いですねー。



[編集後記] 5月に入り、時折「夏日」もありますが、このニューズレターならぬオールツレターは涼しい日々のお回想です。というのも、第20回マスターズは近づいてきたし、逆順になるのも何だし、第2部だけの参加者も募りたいので、あたふたと刊行します。それにしても、柳原良平画伯のイラストは、ステキですね。(B2:山路)

